

地域支援型農業(CSA)の紹介

写真: 消費者グループの子供たちによる、農作業への参加の様子



CSA とは・・・

CSA (Community Supported Agriculture)は、アメリカで定着しつつある、ローカル・フード運動(地産地消運動)のひとつのかたちです。CSA は、地域支援型農業と日本語訳されますが、実は、CSA ルーツは、日本の有機農産物の産消提携運動にあり、生まれ故郷の日本になじみやすい制度だといえます。

よくあるCSAでは、農家が収穫した農産物をまとめて、消費者グループが指定する「ピッキング・ポイント」まで運びます。消費者グループは、「ピッキング・ポイント」で農産物を分け合い、それぞれの自宅に持ち帰ることになります。あるいは、消費者が農作業を手伝ったり、契約農家を訪問したりした場合に、その場で農産物が受け渡される場合もあります。

CSA 提携契約の仕組み

CSAでは、農産物の量ではなく、期間単位での提携契約を通じて、小規模零細農家などの、既存の市場では経営が不利な農家を、都市部の消費者グループが支援します。この提携期間は、それぞれのCSAによってさまざまですが、一年あるいは半年のものが一般的です。

こうした提携契約は、一定期間ごとに、前払いで行われます。もし、気候や災害などによって、農産物の収穫量が減った場合、消費者グループが手にすることのできる農産物も減ってしまいますが、生産者に対して、返金などのペナルティーが課されることはありません。この仕組みによって、生産者と消費者によって、収穫量のリスクを分担することになります。

消費者が、CSA 農場の農作業を手伝うことも、多くあります。

高知市二葉町市民グループによる、仁淀川町農家グループの支援(CSA)

仁淀川町の農家グループと、高知市二葉町の市民グループとの間の CSA では、都市的地域である二葉町の消費者グループが、仁淀川町の農家グループを支援します。

写真:配当野菜の一例(10月分)



災害時の保険を取り入れた支援提携

この支援提携では、農産物だけでなく、南海・東南海地震、それによる津波等の災害が起きたときに、二葉町自主防災会の消費者グループが、仁淀川町の農家グループから、食糧支援、疎開、移住などの、保険的サービスを受けられる、という内容を織り込もうとしています。

消費者グループにとってのメリット

消費者グループは、顔なじみの提携農家から、直接農産物を購入することができるので、日常的に、安心・安全な食料を口にすることができます。また、直接農家を訪問し、農作業を手伝ったりすることで、農山村の自然を楽しむことができます。さらに、今回の支援提携契約では、災害時の食糧支援、疎開、移住支援といった保険サービスも付帯します。

農家グループにとってのメリット

生産者である農家グループは、直接的に消費者グループに農産物を提供することで、流通コストなどがカットでき、既存の市場に出荷するよりも、高い価格で販売することができます。また、市場に出荷しないので、規格外の農産物を消費者に届けることができます。梱包・包装も必要ありません。さらに、期間ごとの前払い提携契約によって、小規模零細ながらも、比較的経営を安定させることができるとともに、気候や災害などによる不作時のリスクを軽減することができます。

写真:配当野菜の一例(12月分)



支援提携による地域社会の活性化

支援提携によって、消費者グループと生産者グループが、食を通じて日常的に直接つながります。これにより、双方の地域コミュニティの間に、強い連携関係が生まれます。結果として、双方の地域の経済を強化することができます。

急傾斜の圃場の多い仁淀川町では、農地の集約が困難で、農家は小規模零細経営になってしまいます。このような農業を、高知市二葉町の消費者グループが支援することで、仁淀川町の離農、耕作放棄に歯止めをかけることができます。こうした取組によって、それぞれの地域が得をする、という範囲を超えて、相互が理解し合い、支え合うことができ、それぞれの地域社会が豊かになることが期待されます。